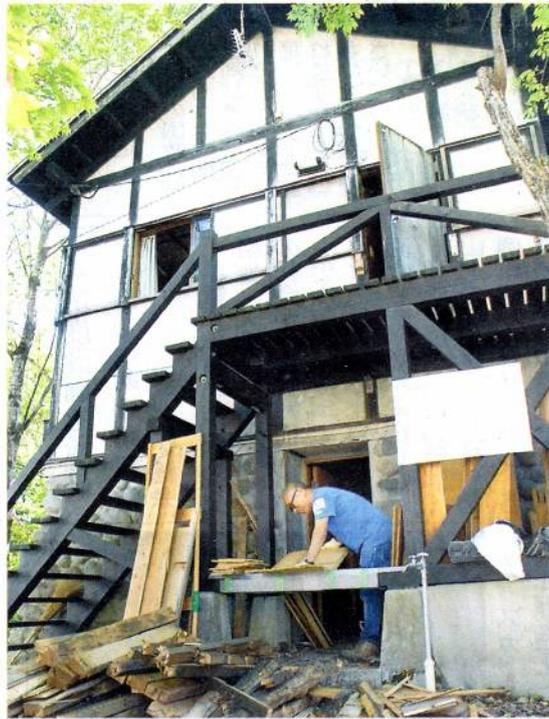


白洲次郎が所有していた山荘。1階内部の改修工事が始まった =山形市蔵王温泉



蔵王温泉の旧白洲山荘

室内再現へ修復工事

東京のNPO法人

白洲次郎が山形市蔵王温泉に建てた山荘「ヒュッテ・ヤレン」の保存活動を展開するNPO法人「元気・まちネット」（東京都）の矢口正武代表（66）＝戸沢村出身＝らが4日、白洲が過ごした当時の室内を再現する修復工事を現地を開始した。

山荘は木造2階建てで、延べ床面積約70平方メートル。1階に間仕切りした三つの寝室、2階にはオープンキッチン、居間がある。白洲が山荘でくつろぐ様子を撮影した写真によると、2階は目立った模様替えはないが、1階は間仕切りがなく洋酒が並ぶバーカウンター、暖炉などが見て取れる。所有権を持つ都内のスポーツクラブ経営者の了解を得た「まちネット」

白洲次郎（しらす）は、1902（明治35年）兵庫県出身。戦後の混乱期に吉田茂元首相の側近として活躍。連合国軍総司令部（GHQ）と渡り合い、「従順な日本人」と評された。51年から59年にかけて東北電力会長を務めた際、蔵王温泉スキー場に山荘を建設した。

が昨年6月、修復に必要な資金を募った結果、約50万円が集まり、着工につながった。

矢口代表ら5人が同日、現地入りし、1階の壁板、柱の取り外し作業に当たった。作業は6日までを予定し、工事費の範囲内で進め

る。矢口代表は「大規模な修復はより多くの資金が必要。今回はバーカウンターを設置できるようにしたい」と話した。今月29、30両日に山荘見学の催しを計画する。

問い合わせは矢口代表090（5494）8699。

山形新聞
2013年6月5日に掲載